

静岡県の茶園におけるクワシロカイガラムシの 土着天敵の発生消長

[研究のねらい]

- ・静岡県の茶園には、多様なクワシロカイガラムシの土着天敵が生息しているが、その正確な種名や種構成などの発生の実態には不明な点が多い。
- ・そこで、茶園における土着天敵の種類別の発生消長パターンを明らかにする。

[研究の成果]

- ・茶株内に吊した黄色粘着トラップによる捕獲調査により、主要天敵種の茶園における発生消長パターンを明らかにした。
- ・第1優占種であるチビトビコバチは、クワシロカイガラムシの幼虫ふ化期に羽化し、クワシロの1齢幼虫に産卵する(図1)。また、クワシロ雄幼虫に寄生したハチは、クワシロ雄成虫の羽化期に羽化するが、羽化成虫は寄主に産卵できないまま死亡すると考えられる。
- ・サルメンツヤコバチは、チビトビコバチに1週間程度遅れて羽化する。クワシロの1~2令の雌幼虫のみに寄生すると考えられる(図2)。
- ・ナナセツビコバチは、クワシロのふ化ピークの約1ヶ月後のクワシロの雄の羽化時期、すなわち交尾期に羽化し、クワシロの雌成虫に産卵する(図3)。
- ・ハレヤヒメテントウは、クワシロのふ化時期または雄成虫の羽化時期に5日程度遅れて成虫が発生する(図4)。産卵は、主にクワシロの雌成虫の介殻の下に卵を産む。

